

## 22 年度 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)後の経過

- 3 月 11 日(金) 14 時 46 分ごろ、三陸沖を震源に、国内観測史上最大の M9.0 の地震が発生。大津波や火災が起き、多大な被害が出る。宮城県仙台市青葉区で、震度 6 弱(後に 6 強)を観測した。  
教員 1 人と学生 2 人が展示室内で板碑を実測中で、職員 2 人と共に館外に避難して、無事。  
15 時 08 分ごろ、三陸沖を震源に、M7.4 の地震が発生。  
15 時 15 分ごろ、茨城県沖を震源に、M7.7 の地震が発生。仙台市青葉区で、震度 3 を観測した。  
その後、東北大学テニスコートに避難していた教職員・学生に合流。  
15 時 25 分ごろ、三陸沖を震源に、M7.5 の地震が発生。  
15 時 40 分ごろ、安否を確認し順次帰宅し、一部の帰宅困難な学生、教職員は体育館に移動した。
- 23 日まで 博物館の建物安全確認が済まず、立ち入り禁止で、職員は学生課で学生の安否確認をした。校内の 3 棟は立ち入り禁止。
- 24 日から 博物館で勤務開始する。資料・施設の被害点検、報告、手配等する。パソコン LAN 不通。当分の間、閉館を決定。
- 3 月 25 日(金) パソコン LAN 開通。施設課による被害下見。
- 3 月 28 日(月) 大学 HP に「休館のお知らせ」を掲載。
- 3 月 30 日(水) 施設課による被害下見。
- 4 月 7 日(木) 23 時 32 分ごろ、宮城県沖を震源とする M7.1 の地震が発生。仙台市青葉区で、震度 6 弱～5 強を観測した。
- 4 月 8 日(金) 前夜の地震による資料・施設の被害点検。
- 4 月 11 日(月) 17 時 16 分ごろ、福島県浜通りを震源とする M7.0 の地震が発生。仙台市青葉区で、震度 4 を観測した。  
情報システム課によるパソコンの状態調査。
- 4 月 12 日(火) 乃村工藝社による展示具の修正。  
14 時 07 分ごろ、福島県沖を震源とする M6.3 の地震が発生。仙台市青葉区で、震度 3 を観測した。
- 4 月 18 日(月) 「大学の復興に向けた全学の集い」開催。
- 4 月 25 日(月) 宮城県博物館等協議会より東日本大震災被害の照会。回答は日本博物館協会東北支部と文化庁被災文化財リストに情報提供される予定。

4月26日(火) 展示品の修正(石器は佐川先生より指導を受ける)。

4月27日(水) 展示品の修正。

4月28日(木) 大学HPに「再開のお知らせ」を掲載。

5月9日(月) 乃村工藝社による板碑の展示。博物館再開。

5月11日(水) 日本博物館協会より東日本大震災被害状況の調査依頼。

5月25日(水) 日本博物館協会より東日本大震災被害状況の調査への回答。

7月27日(水) 東日本大震災により被災した資料の補習・保存に関する研修会  
(東北学院大学図書館)に参加。

10月27日(木) 宮城県博物館等協議会より東日本大震災における被災と復旧に  
関する調査の依頼。

11月11日(金) 宮城県博物館等協議会より東日本大震災における被災と復旧に  
関する調査への回答。

11月15日(火) 宮城県被災文化財等保全連絡会議に参加。

## 22 年度 東日本大震災による被災状況

館員・学芸研究員 教員 1 人と学生 2 人が展示室内で板碑実測中で、職員 2 人と共に館外に避難して、無事。

展示室 資 料 免震台により墨書人面土器は無事。テグスで固定していた土器は倒れなかった。しかし、20 c mの小型木製人形 1 体は張りが弱かったためか、倒れたが無傷。

パネル 天井から吊るし、床に接するように置いた重し付の大パネル(各コーナーごとのもの)がずれた程度。ワイヤーが天井から張っていたため、転倒しなかったと思われる。

収蔵庫 棚を壁に固定する金具が外れたり、緩んだ箇所があった。デバイザー設置のため、資料の落下は防止できた。

実習室 パソコンの本体タワーが倒れて、キーボードの足 1 本壊れる。

事務室 パソコンのディスプレイが倒れて、机から落ちるが異常なし。

建 物 展示室天井の空調機蓋パネル 1 枚が開く。  
南側基礎土台のはがれ。

外 構 南通用口の西側砂利敷部分の沈下・ひび割れ。

駐車場 南側部分の沈下・ひび割れ。  
南側マンションの外壁タイル落下。

歩 道 各所の沈下・ひび割れ

F A X 送 信 票

平成23年4月25日

送信先： 宮城県博物館等連絡協議会 会員各位

件 名： 東日本大震災における被害について（照会）

送信枚数1枚（この送信票を除く）

## 連絡事項

3月11日に発生しました東日本大震災により被害を受けられました加盟館ならびに会員の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、標記の震災により、2011年度版『宮城県の博物館』編集・発行ならびに、例年5月下旬に開催しておりました総会は、延期せざるを得ない状況にあります。

延期の通知は後日に送付いたしますが、冊子発行時期・総会開催時期を検討するため、震災の被害状況を把握したいと思いますので、下記により御回答をお願いします。

お忙しいところとは思いますが、御協力をお願いいたします。

## 記

- 1 回答：別添様式によります。
- 2 返送期日：4月30日（日）までにFAXもしくはEメールでお願いします。
- 3 Eメールの方へ：回答様式を御希望の際は担当まで御一報をお願いします。
- 4 回答結果：宮城県博物館等連絡協議会総会場で配布するとともに、同意された館は以下に情報提供する予定です。

①日本博物館協会東北支部「平成23年度東北地方太平洋沖地震におけるミュージアムの被害状況調査について」

依頼：平成23年4月12日付け日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会

項目：公開されたEメール、職員・利用者の被害、施設の被害、収蔵品・展示の被害

②文化庁文化財レスキュー候補となる被災文化財リスト

現地本部が仙台市博物館に置かれ、文化庁職員が常駐し、文化財所有者の依頼を受けて、一時保管による救援を行います。

項目：収蔵品・展示の被害

- 5 このFAXに対する問い合わせ（担当）

宮城県博物館等連絡協議会事務局（東北歴史博物館内）

企画部 笠原 信男

電話 022-389-0627 FAX 022-368-0109

Eメール kasahara-no819@pref.miyagi.jp

宮城県博物館等連絡協議会事務局（東北歴史博物館内）

FAX 022-368-0109

東日本大震災における被害について

施設名： 東北学院大学 博物館

記入者名： 青村 光夫

郵便番号： 980-8511

所在地： 仙台市青葉区土樋 1-3-1

電話番号： (022) 264-6920

公開されたEメール： museum@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

職員・利用者の被害	なし		
施設の被害	展示室…展示ケース等が壊れた。 外構施設…駐車場・歩道等の沈下、ゆがみ		
収蔵品・展示の被害	展示ケース・展示台等	なし	
	収蔵品被害点数	0 点	
	収蔵品の種別・被害状況	歴史資料・考古資料・民俗資料・美術工芸資料の別等 なし	
	一時保管場所 (収蔵品の一時避難)	希望する(期間:	)
今年度の予定	開館中	開館準備中 5月9日開館	休館等
協議会への支援要望	なし		
情報提供(同意する場合に○)	①日本博物館協会東北支部 ②文化庁文化財レスキュー候補		



平成23年5月9日

会 員 各 位

財団法人 日本博物館協会  
会 長 錢 谷 眞 美

東日本大震災による被害状況に関する調査について（依頼）

このたびの東日本大震災により亡くなられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り致します。また、被害を被った多くの方々に対して心よりお見舞い申し上げます。

当協会では、義援金の呼びかけや国に対する被災博物館への助成制度創設の要望などを行ってまいりましたが、今後の復興事業に積極的に対応し、博物館等の被災状況の把握や復興に向けた救援活動を行うとともに、海外に向けて情報発信をしていくことを目的として、国際博物館会議（イコム）日本委員会と共同で「日本博物館協会／イコム日本委員会 東日本大震災対策本部」（本部長：日本博物館協会会長、副本部長：イコム日本委員会委員長）を設置いたしました。

国内の救援活動に関しましては、すでに文化庁の支援のもと東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）が始まっており、去る4月15日には、事業実施主体となる「救援委員会」が発足しております。当協会としては、救援委員会の構成団体として、出来る限りの協力を行っていく予定です。

つきましては、会員館における被害の状況を確認し、今後の支援の資料とするための実態調査を実施させていただきます。北海道・東北地方と関東甲信越、ならびに静岡県の会員の皆様に調査票を送付させていただきますので、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

被害を受けられた博物館におかれましては復旧の対応等でお忙しいところ誠に恐縮に存じますが、回答は、できれば5月31日（火）までにお願ひします。FAXの場合は03-3591-7170へお送りください。Eメールによる回答も可能です。調査票の様式は当協会ホームページからダウンロードいただき、webmaster@j-muse.or.jp にお送りください。

本件問合せ先：日本博物館協会 担当：守井  
〒100-8925 東京都千代田区霞ヶ関 3-3-1 尚友会館  
TEL 03-3591-7190 / FAX 033591-7170  
Email webmaster@j-muse.or.jp

11.5.19



日本博物館協会/イコム日本委員会 東日本大震災対策本部 行き  
FAX番号:03-3591-7170(送信票不要) \*締め切り:5月31日(火)

東日本大震災による被害状況に関する調査票

館名	東北学院大学博物館	所在地 (都道府県)	宮城
回答者氏名	青村 光夫	Eメール	museum@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
連絡先	電話 022-264-6920	FAX	022-264-6917

開館状況	5月9日現在 <input checked="" type="checkbox"/> 1 通常どおり開館 <input type="checkbox"/> 2 震災等の影響により閉館（開館予定 月 日頃） <input type="checkbox"/> 3 その他：		
人的被害	職 員	有・無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	(有の場合、具体的に)
	来館者	有・無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	(有の場合、具体的に)
建物や設備の被害	<input checked="" type="checkbox"/> 1 運営に影響する被害はない <input type="checkbox"/> 2 建物や設備に被害があり、運営に支障が生じている <input type="checkbox"/> 3 建物や設備に大きな被害があり、運営ができない (具体的な被害状況)		復旧に要する費用 約 — 万円
展示や資料の被害	<input checked="" type="checkbox"/> 1 資料に被害はない（被害があったがすでに復旧した） <input type="checkbox"/> 2 資料に被害があり、運営に支障が生じている <input type="checkbox"/> 3 資料に大きな被害があり、運営ができない (具体的な被害状況)		復旧に要する費用 約 — 万円
支援に関する要望事項	<input checked="" type="checkbox"/> 1 外部からの支援は必要としていない <input type="checkbox"/> 2 資材や備品などの供給が必要 <input type="checkbox"/> 3 特定の分野に関する専門家の支援が必要 <input type="checkbox"/> 4 多人数による館内の作業などの支援が必要 <input type="checkbox"/> 5 保管場所など館外スペースの確保が必要 <input type="checkbox"/> 6 その他		

※確認が困難な場合には、「現時点で不明」とご記入ください。

5/25 送信済

平成 23 年 11 月 11 日

各位

宮城県博物館等連絡協議会事務局 御中

宮城県博物館等連絡協議会

東北学院大学博物館  
館長 辻 秀人

東日本大震災における被災と復旧に関する調査（依頼）

時下、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別の御高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、標記の件につきましては、御担当者様にはお忙しい中を大変恐縮ではございますが、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 開館状況について

震災後の開館日と、開館できない状況にある館はその見通しについて

5/9 再開。

2. 被災資料について

被災資料の修復作業やその見通しについて

なし

3. 宮城県博物館等連絡協議会に望むこと

なし

4. その他お困りのこと

なし

御多用中の折、誠に恐れ入りますが、自由書式で、11月20日（日）までにFAXまたはEメールにて御回答いただきたくお願い申し上げます。

御回答いただいた内容を今後の当会の運営に反映させてまいりたいと思っておりますので、よろしく御協力をお願い申し上げます。

23.11.11  
送付

本件に関する連絡先  
事務局：東北歴史博物館  
企画部企画班 相原淳一  
TEL:022-389-0627 FAX:022-368-0109  
Email:aihara-ju721@pref.miyagi.jp

23.11.10

了



東日本大震災における被災と復旧に関する調査について（回答）

下記のとおり、回答します。

記

1、5月9日に再開。

2、なし

3、なし

4、なし



## 承認書

宮城県被災文化財等保全連絡会議（以下連絡会議）の設置および参加にあたり、下記の案件について承認します。

併せて、連絡会議の会長には参加団体より、東北歴史博物館長が就任することを承認します。

記

宮城県被災文化財等保全連絡会議設置要項（案）

宮城県被災文化財等保全連絡会議幹事および事務局に就く機関について（案）

平成23年11月15日

所 属 東北学院大学

氏 名 博物館長 辻 秀人



## 「宮城県被災文化財等保全連絡会議」設置要項（案）

### （名称）

この会は、宮城県被災文化財等保全連絡会議（以下「本会議」という。）と称する。

### （目的）

本会議は、東北地方太平洋沖地震によって被災した県内の文化財等の保全を図るため、文化財レスキュー事業（東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業）に関わる各関係機関・団体との連携・協力の下に必要な活動を行うことを目的とする。

### （組織）

- （1）本会議は、被災文化財等の一時保管施設、地元市町教育委員会等、別記の機関・団体をもって構成する。
- （2）本会議は、必要に応じて別記以外の機関・団体等に参加又は協力を得ることができる。
- （3）本会議の設置期間は、平成23年10月〇日から平成25年3月31日までとする。  
なお、設置期間は必要に応じて延長できるものとする。

### （活動内容）

- （1）一時保管文化財等の適切な管理に必要な処置の実施
- （2）一時保管施設の環境調査と環境向上への技術的支援
- （3）一時保管文化財等の修復等への支援
- （4）一時保管施設から所蔵者への返却に対する協力
- （5）被災文化財等の一時避難・保管要請への対応

### （運営体制）

- （1）本会議の活動は、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会および各関係機関・団体等との連携・協力の下に行う。
- （2）本会議の中から幹事を選出し、幹事の中から互選によって代表幹事1、副代表幹事1を定める。本会議の代表は、代表幹事の所属する機関の長がとめる。幹事の任期は平成25年3月31日までとする。ただし、本会議の設置期間が延長された場合、再任を妨げない。
- （3）代表は、本会議を代表し、会務を統括する。
- （4）本会議は、代表が召集し、本会議の運営等に関わる重要事項を審議する。
- （5）本会議のもとに幹事会をおく。幹事会は、幹事によって構成され、本会議の活動に関わる事項を協議・調整のうえ執行する。
- （6）本会議の事務局は、〇〇〇〇〇〇に置く。本会議の事務は、事務局において処理する。
- （7）本会議に対して支援金等が寄せられた場合、その会計処理は別に定めるところにより、事務局において適正に処理する。また、この場合、本会議の中から監事1を定める。任期は平成25年3月31日までとする。ただし、本会議の設置期間が延長された場合、再任を妨げない。

### （その他）

本要項に定めるもののほか、本会議の運営に関し、必要な事項は代表が別に定める。

施 行

平成23年10月〇日